



谷原小だより

9月号

発行 令和8年9月1日

練馬区立谷原小学校

校長 伊藤 雄一

練馬区立谷原小学校の
学校ホームページ
携帯サイトはこちらから



きこうせっち

記号接地 ～葛藤・試行錯誤を通して一步ずつ歩む～

校長 伊藤 雄一

この夏の記憶

この夏は、熊本地震や千葉での豪雨、東京でも急な大雨や地震が相次ぎました。世界に目を移すとネパールでの大規模土石流など、これまで見たこともないような映像の数々に言葉を失う思いがいたしました。自然災害のみならず、戦争や紛争が絶えず、私たちの暮らしにおいても決して対岸の火事とは思えない緊張感が漂っています。

子どもたちを過度に不安にさせたくはありません。一方でこうした世界や社会の出来事を「自分事」として捉え、自ら考えてたくましく生き抜く人に育ってほしいと願っております。

「実感を伴う学び」と「記号接地」

そのためにも、今改めて重要視されているのが「実感を伴う学び」です。認知心理学者の今井むつみさんが自らの著書、国の中央教育審議会等で発信しているメッセージの核心は、「AI が普及する時代だからこそ、人間は AI には真似できない『身体性を伴う経験』を通して学ぶべきである」という点にあります。単なる情報の暗記や処理にとどまらず、自らの身体を通した実感を伴ってこそ、言葉や知識は真の意味を持ちます。これが「記号接地」であり、自ら意味に気づき、人生を舵取りする力を育む鍵となります。

葛藤・試行錯誤を通して一步ずつ

谷原小学校では、やわらっ子の「こうしたい!」「やってみよう」という思いを大切にします。各学年の各教科の学習を関連・発展させた体験学習や、やわらっ子まつり、運動会、音楽会などに皆で力を合わせて取り組みます。

体験を通じて何かに取り組むと、時には思うようにいかないこともあります。しかし、葛藤を感じながらも試行錯誤することこそが、伸びやかな子ども時代だからこそ思い切りできる貴重な経験です。失敗したり友達とぶつかったりしながら学ぶプロセスを大切に、人格の基礎をつくる小学生時代、しっかりと地に足をつけて一步ずつ歩んでほしいです。長丁場の2学期、やわらっ子の歩みに対して、皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

第3回 校歌誕生 ～朝風よりもやさしく清く・青空よりも明るく高く～



「朝風よりもやさしく清く 青空よりも明るく高く」やさしく美しい歌詞で始まる谷原小の校歌は、開校 5 周年を記念して誕生しました。作詞は、昭和を代表する詩人、作詞家、作家のサトウハチローさん。作曲は、昭和から平成にかけて活躍したクラシックの作曲家、指揮者の渡辺浦人さんです。大変著名なお二人には、昭和37年3月にお二人を学校に招いて「校歌を頼む会」を行い、完成した校歌は昭和 37 年6月7日に「校歌発表会」でお披露目となりました。5 周年記念誌では、校歌ができた喜びを児童の作文から知ることができます。「5 周年を

むかえて」との題名で書かれた当時 6 年生の児童の作文です。「私たちの念願だった校歌も、サトウハチロー、渡辺浦人両先生によって作っていただき、卒業生を送った講堂で発表会がありました。まだ、5 年ですが、りっぱな学校に育てていくには、困難も苦労もありました。私達は努力をかさねて素晴らしい学校にしていきたいと思います。」また、別の児童は、「僕たちが卒業の時、校歌と校旗ができました。それが嬉しかったです」5 周年記念誌には校歌誕生への喜びの記載が数多く記され、当時の音楽の先生の尽力も大きかったようです。

校歌完成から 15 年経った 20 周年記念誌には、作曲した渡辺浦人先生が寄稿された原稿に次のようにあります。
「私は、その時のことを、今でもよく覚えています。私の一番親しいサトウハチローさんと一緒に春三月もう桜のつぼみもふくらみかけてきたころ、谷原小学校へ来てみました。『ああ、空がきれいだなあ。ああ、あそこに富士山が見える。桜の木がたくさんありますね。』校長先生と片野先生(音楽の先生)に案内されて、私たちは次々と見て歩きながら、感じたことを話していきました。それから二日たったと思いますが、朝早くハチローさんから、嬉しそうな声で電話がかかってきました。『浦人さん、谷原の校歌ができたよ。とてもいいのができた。ゆうべね、風呂に入っていて、谷原の景色を思い浮かべていたら、いい言葉が次々うかんできて、急いで風呂から出て書いたよ。』では、すぐもらいに行きますから。』私もたしか 2 日間ぐらいで作曲したと思います。ですから、桜のつぼみを見てから桜がきれいに咲くころには、校歌が出来上がっていたと思います。ハチローさんと一緒に作った校歌はいくつもありますが、こんなに早く、こんなによくできた校歌はありません。発表会の日も、おじゃまして、二人で皆さんの歌う校歌を気持ちよく聞かせていただきました。皆さんがこの校歌を大事にして歌っていると知って、本当にうれしく思います。サトウハチローさんは、お亡くなりになって 5 年経ちますが、きっと喜んでくださっていることでしょう。」

歌い継がれてきた谷原小の校歌。校長室には、サトウハチロー先生と渡辺浦人先生の直筆の歌詞と楽譜が今も飾ってあります。あらためて、お二人と当時の児童や先生方の思いを馳せることができました。